

# 産婦人科後期研修プログラム

## I. 研修目的（研修の到達目標）

日本産婦人科学会の産婦人科専門医として要求されるレベルをこえて産婦人科医療を正確、確実に主体的に実践できる力を身につけることを最終目標とします。

## II. 研修内容（当院ホームページ『産婦人科研修プログラム』を参照）

スーパーローテーターと基本的に異なる点は、全て『主治医』として患者に接するようになるということです。専攻医だからという甘えは許されません。君が目指す医師像に、君自身の努力で近づく努力をしてください。上級医の指導を仰ぎながら、医療を行わねばならない場面が多いことではありますが、君の医師としての判断も正当に尊重されます。

外来診療は2回/週、当直は4回/月程度が割り当てられ、手術は附属器切除、帝王切開などから始まり、子宮単純全摘などの主治医になるようになり、脇役ばかりだったスーパーローテーターから、自分で主体的に取り組まなければならない（取り組むことが出来る）局面が一気に増えます。君がスーパーローテーターとして培って来た力を土台に、産婦人科専門医としての肉付けをすべく、我々は精一杯応援し、また、君を仕事の仲間として迎えます。

例えば、当科研修プログラム-G. 婦人科手術-5. 1)、2)、3)、5) は数ヶ月もすれば間違いなく指導医の下とはいえ、主治医である君が執刀するチャンスが与えられ、6) は君自身で鉗子を握らねばならなくなります。4) も当科では、卒後5年目にして執刀を許されるほどに成長している人もいます。

例えば、日本産科婦人科学会案として挙げられている SBO 産科関係優先順位第1位項目は言うに及ばず、優先順位第2位項目/腹式帝王切開術の経験、流・早産の管理も君にとっては日常的な医療行為となり、優先順位第3位項目/産科出血応急処置、急性腹症の患者さえもやがて君の判断と処置を要求されるようになるでしょう。

君の医師としての成長を左右する最大の要因は、君自身のやる気です。我々はそれを手助けすべく最大限の助力をする覚悟です。

なお、研修中でも研修終了後でも、京都大学婦人科学産科学教室同門会（温知会）に任意に加入可能で、研修終了後、一定期間後に教室での研究の道も選ぶことが出来ます。

### Ⅲ. 週間スケジュール、年次スケジュール

---

手術日：火曜日、水曜日、金曜日

検査 子宮卵管造影：月曜日、木曜日、金曜日のいずれか

    コルポスコピー、ヒステロスコピー：適宜、各々週 3～4 件

病理レクチャー・カンファレンス：月曜日

放射線科合同画像カンファレンス：月曜日

産婦人科抄読会：月曜日

術前症例検討会：水曜日

NICU 合同周産期カンファレンス：木曜日

術後および産後症例検討会：木曜日

周産期医療勉強会（小児科新生児医療チーム主催）：月 1 回火曜日

産科病棟カンファレンス：月 1 回水曜日